

## Windows CE について (1)

携帯情報端末としてはシャープのザウルス、IBMのPalm IIIやHPのHP 200LXなどが有りますが、マイクロソフトのWindows CEを搭載したものがいろいろ発売されています。使い方を含めていろいろ充実してきたこともあり、一度Windows CEについて特集してみようと思いましたが、予想以上に資料が無かったため、不十分なものになってしまうことを始めにお断りいたします。

まず、Windows CEの成り立ちですが、私の資料では1996年の11月に「MICROSOFT PEGASUS」という開発中のOSの記事があります。このPEGASUSがその後すぐにCEとして発表されたわけですが、今のものとほとんど同じですので、その概要をまとめてみます。

Windows CEはハードウェアとソフトウェアの2つのプロジェクトで構成されたまったく新しいOSで、ハードウェアの中心であるCPUはNECのVR41、日立のSH3やMIPSなどの限定されたRISCのものに対応しています。画面は640×240が基本でしたが、現在はSVGA対応のものや320×480の従来の携帯機のサイズのものも有ります。メモリとしては2MB以上のRAMと4MB以上のROMを搭載し、他に記憶媒体を持たない小型軽量化(手のひらサイズ、少ないメモリ、小さなディスプレイ)を第一目標として作られたものです。

Windows CEの大きな特徴は、インターフェースも操作性も、デスクトップで動くWindows 95やWindows NTとできるだけ共通化され、デスクトップとの接続が簡単で、速やかにデータ転送が行えるようになっていることです。つまり、Windows CEはデスクトップと併用されることを前提として企画されたデバイスということが出来ます。

Windows CEのインターフェースはWindows 95のものそのままです、入力デバイスとしてはキーボードの他にペンによる操作がサポートされていて、マウスの操作の代わりにペンにより操作することになります。ただし、マウスの左ボタンに相当するタップやダブルタップの機能はありますが、右ボタンに相当する機能が無いため、細かな操作は行えないということが出来ます。Windows CEの中心となる「Win312p」はWindows 95やWindows NTの心臓部(カーネル)であるWin32のサブセット版で、一部大きすぎてふさわしくない機能はサポートされていません。

Windows CEは携帯情報端末のOSとしていろいろな機種が出てきました。だいぶ大きくなって携帯端末というよりもミニノートパソコンのようなものも出てきましたが、その駆動時間の長さ、軽量、小型、外部との連携などモバイル機器としては注目できるものと考えられます。次回からは、その使い勝手などについて連載してみたいと考えています。(次回へ続く)

(情報誌トピックス)

○日経エレクトロニクス 6月28日号

特集 パソコン次の一手

→パソコンの家庭市場が急速に拡大を始めている。しかし、そのパソコンはこれまでのように高性能を売り物にしたものではなく、他には無い特長を持ったパソコンで、安い、かっこいい、わかりやすいがキーワードになっている。

解説 パソコンの低価格化を背景に「PC133」に熱い視線

→台湾で行われた展示会では「PC133(クロック周波数133MHzに対応したボード)」が注目を浴びていた。

○日経パソコン 6月28日号

特集 Office 2000のすべて

→7月9日に発売となるOffice2000。バージョンアップするべき新機能はあるのか。これまでのユーザの不満にどの程度答えているのか。アンケートを基に徹底チェック。

特集 格安パソコンの実力を探る

→CRT付きで10万円以下のパソコン(ダイヤモンドPCも9万以下のパソコン販売)がいろいろ出てきている。安かろう、悪かろうなのか。サポートはどうなるのか。

レポート Windows 98第2版、今夏登場

→発売1年で登場するSecondEdition。その内容は不具合修正とハードウェア対応強化が中心で、現在問題の起こっていないユーザならアップデートする魅力は乏しい。

○日経バイト 7月号

特集 Office 2000を極める

→Webとの連携が強調されているOffice 2000。カスタマイズの多機能などプラットフォームとしても魅力的である。

特集 液晶の画質でデスクトップを選ぼう

→各社から発売となった液晶モニタ付きデスクトップ。カタログではわからないモニタの画質を調査報告。

○ASCII 7月号

特集 新Windows & 新Officeは必要か?

→新Windows (Windows 98 Second EditionとWindows 2000)、新Officeが出荷される今年後半。何が変わり、何が変わらないのか。

特集 パソコンはビデオデッキになった

→MPEG-2のビデオキャプチャ機能を持ったパソコンが発売され、パソコンでビデオ録画、予約、整理、ビデオCD作成が手軽にできるようになった。

○ASCII DOS/V 8月号

- 特集 1999年9月、PC革命のすべてがわかった！  
→9月システムクロックは133MHzとなる。それに伴いメモリの企画も変更され、ハイエンドマシンは新しい時代に突入する。
- 特集 夏だからきれいに見せたいっ カラープリンタ15台  
→フォトクオリティに限りなく近づこうとしているカラープリンタ。各機種比較ときれいに印刷するテクニック。

○PCWORK 7月号

- 特集 Office 2000完全マニュアル  
→4種類のパッケージで発売されるOffice 2000。インストールから各ソフトごとの強化ポイントまで。
- 特集 実力派ビジネスソフト大全  
→仕事に役立つ、個人でも使える、トラブル対策からホテル検索、財務会計ソフトまで。

○INTERROP 8月号

- 特集 業務が変わる！勝つためのワークフロー  
→ワークフローを導入といっても実際は稟議書などの電子回覧程度としか使用されていない。勝つためにどのように膨大な業務プロセスを導入すべきか導入効果を最大限にするための手法は。
- 特集 ATMサービス対応接続機器パフォーマンステスト  
→ネットワークの高速化に対応するATM。NTTの提供するATMサービスの特長と接続する機器の現状。
- 特集 標準化が進むアプリケーションサーバ 差別化のポイントはどこにある？  
→アプリケーションのデータとロジックをサーバに集中し、Webブラウザなどのクライアントから利用するアプリケーションサーバ。そのアプリケーションサーバも標準化されつつあるが、その中で各サーバはパフォーマンスなどで差別化しようとしている。

○DOS/V magazine 7月15日号

- 特集 ファイナルラップ！3Dビデオ最強決定戦  
→高速、高画質の3Dビデオカード。メモリもいつのまにか16～32MB搭載。最新の傾向は。
- 特集 電子化で広がる地図の世界  
→いろいろな機能を持った電子地図。WebタイプからCD-ROMなど、GPSでもつないでいろいろ使える。